

ふり返ろう 1

正負の加法・減法の仕方を確認しましょう。

加法として考えよう。

$-4 - 1$ は -4 と -1 の和と考えることができます。
同じように
 $-5 + 2$ は -5 と $+2$ の和と考えることができます。

同じ符号の場合は、絶対値の和に、その符号を！

-4 と -5 のような同じ符号の場合は、それぞれの絶対値 4 と 5 の和に、その符号 $-$ をつけます。答えは、 -9 になります。

例えば、

$6 + 5$ は、 $+6$ と $+5$ の同じ符号の和と考えることができるので、6 と 5 の和に、 $+$ をつければよいわけです。答えは、 $+11$ でも、 $+$ は省略できるので 11 になります。

絶対値とは、正負の数から符号を取りのぞいたもの大きさを表します。

異符号の場合は、絶対値の差に、絶対値の大きいほうの符号を！

-5 と $+2$ のように異なる符号の場合は、それぞれの絶対値 5 と 2 の差 3 に、絶対値の大きいほうの 5 についての符号 $-$ をつけます。答えは、 -3 になります。

例えば、

$2 - 7$ は、 $+2$ と -7 の異符号の和と考えることができるので、2 と 7 の差に、7 についている符号 $-$ をつければよいわけです。答えは、 -5 になります。

()のついた計算は、()をはずして計算しよう。

$$6 + (+2) = 6 + 2$$

$$6 - (-2) = 6 + 2$$

$$6 + (-2) = 6 - 2$$

$$6 - (+2) = 6 - 2$$

$$+ (+\bigcirc) = +\bigcirc$$

$$- (-\bigcirc) = +\bigcirc$$

$$+ (-\bigcirc) = -\bigcirc$$

$$- (+\bigcirc) = -\bigcirc$$

同符号の場合は+、異符号の場合は-になります。

あとは、全ページの解き方にならって、解いてみましょう。

練習問題1 次の計算をしましょう。

(1) $-5 - 2$

(2) $-4 - 1$

(3) $-6 - 2$

(4) $7 + 1$

(5) $6 - 1$

(6) $-7 + 1$

(7) $4 - 5$

(8) $7 + (-2)$

(9) $-5 - (+3)$

(10) $8 - (-9)$

(11) $-6 - (-5)$

(12) $-3 - (+1)$

練習問題の解答

1

(1) -7 (2) -5 (3) -8 (4) $+8$

(5) $+5$ (6) -6 (7) -1 (8) $+5$

(9) -8 (10) $+17$ (11) -1 (12) -4